

平成30年度第9回定例
松本市教育委員会会議録

松本市教育委員会

平成30年度第9回定例松本市教育委員会会議録

平成30年度第9回定例松本市教育委員会が平成30年12月20日午後4時00分教育委員室に招集された。

平成30年12月20日（木）

議 事 日 程

平成30年12月20日午後4時00分開議

第1 開 会

第2 教育長挨拶

第3 議 事

[議案]

第1号 松本市指定文化財の指定及び解除について

[報告]

第1号 平成30年松本市議会12月定例会の結果について

第2号 平成30年度「地区の皆さんと語る会」の開催結果について

第3号 宇宙関連事業講演会の開催結果について

第4号 平成29年度児童生徒の生徒指導上の諸問題に関する調査結果について

第5号 まつもと子ども未来委員会による市長提言について

[周知事項]

- 1 生誕110周年記念 関四郎五郎特集展示の開催について
- 2 松本市立博物館分館の企画展開催について
- 3 「殿村遺跡とその時代IX—平成30年度報告会・講演会—」の開催について
- 4 松本市美術館館長アートレクチャーの開催について

[その他]

〔出席委員〕

教 育 長	赤 羽 郁 夫
教育長職務代理者	市 川 莊 一
教 育 委 員	花 村 潔
〃	福 島 智 子
〃	山 田 幸 江

〔出席職員〕

教 育 部 長	矢久保 学
こども育成課長	青 木 直 美 (こども部長代理)
教育政策課長	小 林 伸 一
教育文化センター所長	中 村 誠
学 校 教 育 課 長	麻 田 仁 郎
学 校 指 導 課 長	横 田 則 雄
学校指導課指導主事	下 平 将 揮
学 校 給 食 課 長	清 澤 秀 幸
生涯学習課長 兼	
中央公民館長	栗 田 正 和
中 央 図 書 館 長	瀧 澤 裕 子
文 化 財 課 長	大 竹 永 明
松本城管理事務所所長管理担当係長	加 藤 忠 勝 (所長代理)
美 術 館 副 館 長	小 口 一 夫
博 物 館 長	木 下 守
基幹博物館建設担当課長	中 原 和 彦

〔事務局〕

教育政策課	
教育政策担当係長	金 井 稔
教育政策課	
教育政策担当係長	堀 敬 子

《開会宣言》 午後4時00分

赤羽教育長は平成30年度第9回定例松本市教育委員会の開会を宣言した。

教育長 今年、私の心に強く残ったこととして、私たちは便利さを求める余り考えるということを自ら放棄しつつあるのではないかということです。

その一つとして、7月にサロンあがたの森が開催され、そこで信州大学の三谷先生の講演をお聞きしたのですが、最後にこんなまとめをされました。「人間はあっという間に考えることを放棄してしまうもの。そこを引き受ける人が必要です。分からないが何か間違っている、無かったことにしない。問題はここにある。とあえて問いや声を上げる。そしてあえて考える習慣をもった仲間を広げる、思考する勇気をもつこと」というようなまとめをされています。

また、11月によく行く駅前の本屋さんの片隅に絵本作家の安野光雅さんという方の、「かんがえる子ども」という1,000円の小さな本がありました。その本が目にとまり読んでみたのですが、外の帯に、「子どもも大人も自分で考える癖をつけて欲しいのです。自分で考え判断することの中からこれは本当、これはうそと物事を見きわめていけるようになってもらいたいと思っています」というようなことが書かれていました。私はこの三谷先生とこの安野さん、お二人とも同じことを言っているように思いました。今は、スマホやネットを使えばすぐに教えてくれ、それを見ると私たちはあたかもそれが真実かのように考えることもなしに受け入れてしまうという。私たちの生活の中から考えるということがどんどん失われているのではないかという危機感を覚えています。

これからの教育を考えるときに、自分で考えるというこの問いが非常に大事なことではないかと思っています。自分で考えるということは、これからのテーマになるのではないか、ふさわしいのではないかと私は今年1年の自分への中の問いの総括としてそんなことを感じました。

皆さんは、どんな問いが生まれたのでしょうか、またいつかお聞きできたらと思っています。

本日は、今年最後の定例教育委員会となります。また、皆さんご承知のことと思いますが、花村潔委員が12月25日をもってご退任されます。本日、最後に花村委員からお言葉をいただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、3分間スピーチを大竹文化財課長、お願いいたします。

大竹文化財課長 「シンビズム展覧会について」3分間スピーチ

教育長 次回は、松本城管理事務所の手島所長ですので、よろしくお伝えください。

《署名員の指名》

教育長 本日の会議録署名委員は、花村委員、福島委員です。

《議案審議》

教育長 本日の案件は、議案が1件、報告が5件、周知事項が4件です。

<議案第1号> 松本市指定文化財の指定及び解除について

文化財課長 議案第1号「松本市指定文化財の指定及び解除について」趣旨、指定する文化財、指定解除する文化財、答申書（案）、その他を説明

教育長 ご意見、ご質問等ございますか。

無いようですので、議案第1号については承認することとします。

<報告第1号> 平成30年松本市議会12月定例会の結果について

教育政策課長 報告第1号「平成30年松本市議会12月定例会の結果について」趣旨、会期等について、教育民生委員会の審査結果について、教育民生委員協議会について説明

教育長 ご質問、ご意見等はございますか。

特にご発言がないようですので、報告第1号については報告を受けたこととします。

<報告第2号> 平成30年度「地区の皆さんと語る会」の開催結果について

教育政策課長 報告第2号「平成30年度『地区の皆さんと語る会』の開催結果について」趣旨、日時及び参加者、懇談テーマ、アンケートの集計結果等について、今後についてを説明

教育長 ご意見、ご質問等ございますか。

もっとお母さん方の参加があればいいというようなところですが、時間的な

こともありますが、いっそ公民館ではなく、こどもプラザや児童センターでやってみたらどうでしょうか。そういったところで一度やってみる価値はあるのではないのでしょうか。

また、来年に向けてぜひその点も検討していけたらと思っています。

それでは、報告2号につきましても、報告を受けたこととします。

<報告第3号> 宇宙関連事業講演会の開催結果について

教育文化センター所長 「宇宙関連事業講演会の開催結果について」趣旨、講演会の概要、開催結果、今後についてを説明

教育長 私も、参加したのですが、今年は子どもや学生が多く、親子参加も多かったです。参加者集計を見ると、今年度の参加者は112人で、昨年は126人で14人減となっていますが、私は参加者より質が問題だと思っています。どうしてもいろいろなものを見ると何人集まったとか、沢山集まったことがあたかも成果のようになるのは少し違うと思います。参加者は少なくとも「いい会だった」とみんなが思っただけ帰る会が一番いい会だと思っています。

象徴的だったのは、講演会終了後、高校生が三澤先生と長時間話をしていたことです。終了後にも三澤先生とまた話をしたいと思う講演会。憧れの人と話をするみたいなこと、子どもたちにとってすごく大事なことだと感じた講演会でありました。

また、来年もぜひ、いい企画を立てていただけるといいなと思います。

それでは、報告第3号は報告を受けたこととします。

<報告第4号> 平成29年度児童生徒の生徒指導上の諸問題に関する調査結果について

学校指導課長 「平成29年度児童生徒の生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」趣旨、報告内容、調査対象校、調査結果、今後の取組みを説明

教育長 ご質問、ご意見等ございますか。

はい、福島委員。

福島委員 今回、報告が遅くなったということですが、通常どのぐらいに報告されるものなのでしょうか。

学校指導課長 通常だと9月です。

福島委員 分かりました。

それから、調査結果の暴力行為の内訳を見ると、対児童生徒がほとんどで、相手から何か言われたりしたときに暴力になるということですが、これは暴力に該当するのでしょうか。

学校指導課課長 相手から、からかわれた、いわゆる身体接触が伴うような行為があった場合には暴力というような形でカウントされると考えています。

福島委員 原因によっては、必ずしもそれを暴力とすることの意義がよく分かりません。しかし、それは定義上、手を出した方が必ず悪いというか、暴力の事案になるということなのですね。

学校指導課課長 おっしゃっていることはよく分かります。例えば、暴力といじめの境目はどこでつけるのかというようなことだと思うのですが、担当の指導主事が来ておりますので説明します。

学校指導課指導主事 いじめの定義は心理的苦痛を伴うもの全てということですが、心理的苦痛を味わったら常にいじめになります。今、課長がおっしゃったとおり、暴力というその判断は最終的には学校長や教頭が暴力事案として挙げてくるかどうかになります。そのときに一番多いのは、どんな理由であれ、正直言うと、少し病気がち、もしくは精神的にもといったところで、とっさ的に反応して手が当たる、当たったという、手が出たといったときの訴えがどれほどかによって暴力になってしまいます。手が当たって叩かれた、暴力ではないかと言われてしまうと学校側も暴力事案として素直に受けとめます。

今回の事案を見ても、重大事案になることはなく、からかいや友達とのコミュニケーションから少し発展して、相手を蹴ってしまった、いわゆる接触と捉えていわゆる暴力事案として挙がってきているという状況です。

福島委員 ただ、そのいじめの様態別の中にも、「叩かれたり蹴られたり」という身体接触はありますよね。そのあたりは区別されているのですか。

学校指導課指導主事 やられた方の保護者が暴力という言葉を使ってくる場合があります。そうすると暴力の枠で学校側も報告してきます。

教育部長 暴力事案ということは分かりますが、例えば、からかわれたり悪口を言われて手を出してしまったときには、学校は両者にどのように指導しているのでしょうか。

教育長 ある意味、こういった何か言われて泣きながら殴ったり、叩かれたりという事案は日常茶飯事にあります。

福島委員 しかし、それがこの調査に挙がってくるかどうかというのは、校長先生が判断されているということですね

教育長 学校ではまず担任、それから学校内で判断して挙げてくるということになります。ただ、そこには原因があるわけですので、お互いにその原因云々について納得し、その場で「ごめんね」ということで解決していくようなものは挙がってこないと思います。

福島委員 むしろ、挙がっているということはかなりの理由があるから挙がっているのか、そのあたりはどういう判断で挙げられているのでしょうか。

教育長 基本的には、暴力となるには一方的な状況が見られるということではないでしょうか。

福島委員 そうだとすると、調査結果の34ページのエの（イ）がここにくるべきものではないのではないかなと思います。例えば、相手が悪くてそれに対して手が出てしまったというものをここに挙げてくるのが何故なのか気になったので質問させていただきました。

 それから、いじめの状況の数字が挙がってきますが、この中で、かなり重大として学校あるいは教育委員会が捉えている事案はあるのでしょうか。

学校指導課指導主事 松本市として重大事案はゼロであります。

福島委員 35ページのオいじめの現在の状況の3その他というのはどういったものでしょうか。

学校指導課長 県外への転出です。

福島委員 最後の質問ですが、36ページ5に今後の取組みがありますが、具体的にどうするのかということがよく分かりません。例えば、（3）の不登校の子どもたちに対する自立支援教員について2年間やってみてその成果と課題がどうなったのか、そういったまとめはお知らせいただけるのでしょうか。

学校指導課長 自立支援教育の配置については、当初、1年終わったところで見直すこととしていましたが、1年ではなかなか成果が見えないため、2年は今の配置でいくことにしています。

 自立支援教員の配置自体の成果と課題をまとめて次の事業への展開を図って

いかなくتهはいけないと思っていますので、成果がまとまりましたら報告いたします。

不登校の子の人数1がゼロになるというのはハードルが高いです。ただ、今年取組みの中で手応えを感じているのは、同じ30日以上不登校の子でも150日ぐらい欠席をしていた子が、90日とか80日ぐらいの欠席で頑張ってきているというのは、同じ不登校の数1で、30日以上でカウントしてきてしまうのですが、その中身が変わってきています。一人ひとりの子どもがどのように不登校の状況が変わってきたのかという、そこに目を向けて評価といますか、事業の振返りをして、子どもたちにも先生方にもそういう取組みの効果が出ているということフィードバックしていくことで、次なる効果を生むのではないかと考えていますので、そんな方向で報告をできればと考えています。

教育長 2年間の取組み、具体的な成果や課題についてはまた教育委員会の中でもぜひ報告をしていただければと思います。

福島委員 よろしいですか。

福島委員 もう1点だけお願いします。

教育長 はい、どうぞ。

福島委員 34ページの(2)ウいじめの発見に至った経緯別集計、ウですが、アンケート調査で発見するケースが一番多いということですが、ここで挙がってくるものというのは、アンケート調査ではなく人から挙がってくるものとのダブリはあるのでしょうか。

学校指導課指導主事 この文科省の調査に限っていいますと、一番優先的な、いわゆる第一発見者という捉えで、一番関わりの深いところということで一択になっています。松本市で挙げているものについては複数回答が出てきていますが、文科省調査は一つのみ、限定してくださいと言われてます。

福島委員 これはダブらないということですね。

学校指導課指導主事 そうです。

福島委員 わかりました。

教育長 他にご意見等はないでしょうか。

それでは、報告第4号については報告を受けたことといたします。

<報告第5号> まつもと子ども未来委員会による市長提言について

青木こども育成課長代理 「まつもと子ども未来委員会による市長提言について」趣旨、実施日、会場、参加者、提言テーマ、その他を説明

教育長 ご質問やご感想等ございますか。

市川委員 何年目でしたか。

こども育成課長 4年目です。

教育部長 厳しいことを言うようですが、提言することがすごいみたいな、そういう次元はもう超えなければいけないのではないかと思います。何となく、子ども委員会がやることはいいことで肯定的に捉えすぎているように思います。正義感一杯の子どもたちがまちを見て感じたことを書いているだけで、これで考える子どもができていけるのかなというところが気になります。

市関係者から市長、教育長、土屋環境部長のコメントが出ていますが、ごみ問題だったら、「何でごみが多いのか」「何で発生するのか」「コンビニに行くのとどれだけのごみがあって、自分たちはコンビニを今までどおり使うことがどうなのか」というようなことについて、コーディネーターみたいな人が少し方向を示すようなことをしないと、何か深まっていかないのではないかと感じました。

交通ルールにしても、「どうやったらマイカーを減らせますか」とか、「君たちもどうやったらお父さん、お母さんたちに言えるの」みたいな、何かもう少し本当に子どもが考える内容を少し考えていかないと、同じことの繰り返しで提言したことイコールいいことみたいになってきているのではないかと感じます。言い過ぎかもしれませんが、「ただやってよくやりましたね」というのは、もう卒業しなければいけないのではないかと感じました。

教育長 私は、子ども未来委員会の一番いいところは、学年も学校も違う子どもたちが一緒になるということです。今の子どもたちは塾やスポーツでしか経験できないことです。それも大人が関わってくれるという、そういう意味ではまさに探求的な学びというか、考える子どもというか、そういうところへこれからつながっていくということが、子ども未来委員会の子どもたちの育ちにつながっていくと思いました。

6ページの女の子は、何と私の町内の子どもでした。12月にしめ縄づくり

講習会をやり、その時にお母さんと一緒に来ていて、そこでいろいろ話をしたのですが、お母さんが「うちの子は未来委員会へ行って人前に出ても積極的に
なって本当にうれしい」「うちの子は未来委員会に行かせて良かった」と喜んで話をしてくださいました。おそらく、どの親も引っ込み思案を何とかしてもらいたいとか一人っ子だからもっとこうなって欲しい等願っていると思います。子どもたち自身もそうなりたいと思っていると思います。もっと違う自分になりたいと。そういう面では、とてもいい活動だと思うので、ぜひステップアップできればよりいいかなと思いました。

しかし、これだけの子どもたちをまとめて限られた時間の中で提言していくということはとても大変だと思います。

もし教育委員会でも何かお手伝いできることがあれば、ぜひ言っていただければと思います。

それでは、報告第5号についてはよろしいでしょうか。

では、報告をいただいたことといたします。

<周知事項1> 生誕110周年記念 関四郎五郎特集展示の開催について

<周知事項2> 松本市立博物館分館の企画展開催について

<周知事項3> 「殿村遺跡とその時代IX—平成30年度報告会・講演会—」の開催について

<周知事項4> 松本市美術館館長アートレクチャーの開催について

教育長 周知事項の補足等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、花村委員からお話をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

花村委員 お忙しいところ、済みません。この時間をお借りしまして、平成22年から通算8年間お世話になりました。

曲がりなりにもいろいろ勉強させていただいてあっという間の8年間でした。

私は学校訪問に行くと直感で雰囲気分かります。ある学校は、入っていくと、子どもがぱっと廊下の片隅に寄って「こんにちは」とちゃんと挨拶をしてくれますが、挨拶もせず「誰が来たんだ」「どこのおじさんなんだ」という目で見る学校もありました。

学校指導課で不登校、暴力等調べて報告をしてくれませんが、これは本当に根が深いし、いつまでも続く事項だと思います。何かやって解決するという問題ではないと私は思います。根気よく、一つひとつ芽を摘み増えないようにしていくことが私はベターかなと思います。ベストは、なくなれば一番いいのですが、恐らく今の状況を考えると無理なことだと思いますので学校のそういった雰囲気づくりをよろしくお願いしたいと思います。

私は立場上、教育の方は全然だめなんです。よく、私は、診療に来る子どもたちに「今年から道徳が始まったよな。先生が小学校のころに道徳の教科書があったらもっといい医者になったかもしれないけど、今じゃちょっと遅い。今からじゃ治るわけないからな。先生のまねをするなよ。」とよく冗談を言っては子どもを和ませて、それで診察をしています。

私が、教育委員会の職務を仰せつかって困ったことは、毎日の診療でした。月に何度か会議が入り、休診しなければならず、そのたびに「昨日は先生どこに行っていた」と患者に聞かれ「いやどこにも行ってない、逃げてないよ」とよく言うておりました。かなり患者さんには迷惑をかけてきました。当然、就任のときに市長に「診療がかなり犠牲になりますが、先生そここのところうまくやってくださいね」と言われ、承知していたことでしたが、やはり負担が大きく、患者さんには迷惑をかけてきてしまいました。

8年間、あつという間でした。皆様のご指導をいただいているいろいろ勉強をさせていただきました。本当にありがとうございました。

教育長

花村委員さん、2期、8年にわたって私ども松本市教育委員会を支えていただいて、本当にありがとうございました。

花村委員さんは特に医療者、そして学校医という立場からもいつも先生の信念に基づく、信念の片鱗を熱く語っていただきました。教育はこうありたい、子どもはこうありたい、親もこうありたいという、そういうことを私たちに常に示していただいたと思っております。

本当に花村委員さんの8年に亘るお支えに感謝を改めて申し上げます。先生ありがとうございました。どうぞ、これからも私ども、松本市教育委員会、また松本の子どもたちを陰からぜひお支えをいただきたいと思っています。ありがとうございました。

それでは、事務局からお願いいたします。

事務局 1月13日は成人式、17日は教育委員研究会、24日は定例教育委員会です。以上ですが、よろしくをお願いいたします。

教育長 それでは、以上で第9回定例教育委員会を終了いたします。

《閉会宣言》

赤羽教育長は、平成30年度第9回松本市教育委員会を閉じる旨宣言した。

＜午後5時30分閉会＞

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

堀 敬子

会 議 録 署 名 委 員

花村 潔

福島 智子